
とある館の執事長

とある初心者

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある館の執事長

【Nコード】

N6151Z

【作者名】

とある初心者

【あらすじ】

日常をたぶんチートオリキャラを混ぜてすごさせます。 題名詐欺
どんとまるこい！という方のみお読み下さい。

序章（前書き）

作者は初心者につき幼稚な駄文を量産いたします。

これは・・・、やこんなの私（俺）の嫁じゃなねえ！と思う方は戻るを選択してください。

尚、当作品は更新が亀より遅かったりします。

ご了承お願いします。

序章

とある館に仕えるただの執事の朝は太陽より早く月より遅くむかえます。

「おはようございます、御嬢様」

いつもの挨拶をして部屋の中に入ります。

紳士（自称）である私はノックを忘れません。

「起床の時間に御座います」

「・・・あと五分」

我が主たる者の言葉に従う

「失礼します」

分けもなく布団を剥ぎ取ります。

『きゃー』や、『寒い』など聞こえません。

むろん、『それでもあんた、私に仕える執事なの！』など聞こえません。

聞きません。

「うーっ、鬼！悪魔！甲斐性無し！」

御嬢様は朝から元気いっぱいのです。

しかしながら、言葉使いがやや粗暴過ぎます。教育厳しくなくて

はなりません。

申し遅れました私めは執事長を任させていただいております。

最初は子供達の守やくとし先代から仕えさせていただき。

今では、執事長などと言う役職に付かせていただきありがたくおもいます。

『うー、うー』言う御嬢様は恨めしそつに此方をご覧になります。
私はもう一度挨拶をします。

「おはようございます、御嬢様」

「・・・おはよう」

小声で『まともなおこしかたがあるでしょ』とか『どうにかならなのあの野郎』などと呟いております。
言葉使いを矯正しなくてはなりません。

「お目覚めの紅茶にございます」

お召し物の着替えは妖精メイドが用意するので私は次の仕事に取りかかります。

御嬢様の召し上がる朝食を早急に仕上げます。

下ごしらえを今朝早くにしたのでぬかりはありません。

御嬢様は大変賢い方でございます。

起きてからはだいたいいつもどおりに行動なさいます。

まず身だしなみを整えて食事を取りながら予定について説明致します。

いつもどおりの事にうんざりしていらっしやる用で足をぶらぶらと遊ばせておいでます。

教養を身につける為の読書、食事のマナーや言葉使い、能力の制御する練習、魔力の制御及び運用など挙げればどんどん出てきます。

「本日は、面会しますか？」

そう言ったら『んー』と返事をし、沈黙しました。

「・・・別にしないでいい」

「左様で御座いますか」

しかし、と言わなくとも解るようで

「それよりも予定について詳しく聞かせて」

はぐらかしてくる

「では、説明させていただきます」

まず、お嬢様のご友人のパチュリー・ノーレッジ様が魔法で3日後に霧を発生させまして、二週間後ぐらいで、人里あたりまで霧が広がり、2日後には、博麗神社まで到達する予定でございます

「質問はございますか？」

「なんでこんなにもまわりくどいやり方するの？」

「お嬢様が『じゃあ、明明後日ね!』とおっしゃられましたので」

カリスマ（笑）カリスマ（笑）

「それで、いつ出れるの？」

序章（後書き）

作者の意味不明な敬語に疑問を持ちましたらご一報下さい。

異変前1（前書き）

ご都合主義満載で送りしています。

不審な点や、不満などありましたら御一報下さい。

堅苦しい駄文ですがどうぞ

異変前1

「それで、いつ出れるの？」

「遅くとも5日後当たりになります」

お嬢様は賢い、屋敷で一番知識を貪欲に欲さられる

最近のお気に入りとはある科学都市を描いたものだそうで

「そう」

はいと返事をして退室いたします

やるべき事はいろいろあります

「顔を合わせるのは久しぶりかね、メイド長」

「そのようですね、執事長」

「一人しか居ない執事を長と言うあなたの感性を疑います」

「あら役職なら沢山ありますから転職なさったら？門番なんてオス
スめますわ」

「いやいや、あれは彼女の役ですから盗るのは心が痛むよ」

「あなたに心があるなんて初耳だわ」

「なに、言葉の綾だよ」

「私は、あなたと違って暇ではないので、失礼します」

「無能さんは仕事が多くて大変そうだね」

売り言葉に買い言葉

これが私とコイツの関係

お互い従者だからこそその罵り合い

ただしお互い主を乏したりしない

しかし

自分以外の使い方が下手すぎる

観ていて泣けるよ

依頼（遊び）と褒美（お菓子）をやれば簡単に釣れるのになメイド共（妖精）は

これだから無能を飼うのはいやなんだが

やれ面倒なことに主は無能を気につて入る

まあ、あまり関係ないが

前当主は娘を一人前にするという契約を交わした

一人前になれば契約を満たしたことになるはれて自由よ

もう後少して計画が実行されて前当主が言った“一人前”になることとなる

そうしたら

「ちよつといいですか？」

「なんなりと」

「これをレミイに渡しといて頂戴」

「畏まりました」

受け取った書類をメイド長に渡すべく行動する

珍しいこともあるもんだ“動かない”方が動くなど

程なくしてメイド長を見つけた

割と探すのが大変なんだよ

一秒毎に場所が移るから

「司書長が書類を渡して欲しいそうだ」

「私より仕事ができる、あなたが行けばいいじゃないですか？」

「生憎と私は忙しくてね、これから紅茶の時間なんだよ」

「まあ、随分と優雅ね、それくらい自分でやればいいのに」

毒を吐くのをやめない

「その薄いものでは貰いても居ないでしょうな」

「そういえば、お嬢様は血を欲していました」

腕を出せと仕草する

「だいぶ前に私はお役御免されたよ、何でもマズいそうだ」

血液の中にある魔力濃度がかなり濃い

一滴でも口にすると

魔力酔いするそうだ

「魔力でできた身体だからこのその悩みということではないかね？」

「倒せないアナタが憎いわね」

「倒そうと思ったら、魔界に訪れ私の“本体”を滅ぼすんだね」

まあ無理だと思っがね

非力なお前たち人間共でわ

例え私（本体）を倒そうと昔お札使いが闘いを挑んできたが

私に掠り傷一つ負わせることが出来なかったのだから

でも

心意気だけはかってやり

力を少しばかり上げてやったらすぐにはぜたよ

周りに居た奴は怯え気を失い散り散りに逃げていった

あれは

おもしろかったな

1人ずつゆつくりと追い詰め

逃げれない逃げ道を造り

絶望させ

なぶり

いたぶり

嘆き悲しみ

絶命していった

あの頃は若かったな

異変前1（後書き）

名前は次ぐらいに出します。

あくまでもです。

あまり期待しないで下さい。

閑話・ある得るかもしれない一日(前書き)

注意!

此処に出てくる彼女は本編と異なります。

閑話・ある得るかもしれない一日

「おはよう」

「…おはよう」

朝日が射し込むベットの
上で
優しい声音で語りかけてく彼女

彼女の日課はまず私を起こし

花に水をやり

朝食をつくって

微笑みながら談話し

そして

弾幕ごっこ

お互いスペルカードは2枚の軽い運動
私のスペルカードは

恐怖『嘆きの人形』

畏怖『纏われしもの』

恐怖『嘆きの人形』は白青赤の小弾幕

青がゆつくりと追い詰め、赤が速く放たれ、白がゆらゆらと降る

畏怖『纏われしもの』は大小様々な弾幕が文字道理ホーミングしてくる大玉がゆつくりと小玉が速く

彼女はなんとか耐えたものの、凡ミスで私が当たってしまい勝ち星を逃がしたが

彼女が喜んでいるからまあ、良しとしよう

昼食は運動後なので簡単な軽食をつまみ

ゆつくりと身体を休める

午後からは図書館に赴きパチュリーと魔法の研究をしつつ小悪魔をなじり議論する

夕方になる前に普通の魔法使いの襲撃に合い

応戦したパチュリーと小悪魔がダウンしてしまい

仕方なく私が相手を勤め彼女にお帰りねがった

「今度は負けないぜ！」

勇ましい言葉を吠えて逃げ帰って行くのを見送り、パチュリーの手当てをし

小悪魔を働かせる

『こあー』と鳴いたけどせつせと働く小悪魔を観つつ、パチュリー用のお茶を用意する

パチュリーと談話をして図書館を後にする

夕食は彼女が用意をしてくれていたので感謝の言葉を述べてから口をつける

彼女に今日あったの事を話し後片付けをする

その間に彼女が入浴をするのでアロマキャンドルを用意して彼女が出てくる頃に焚いておく

彼女が出てきたら、まず髪をパチュリーと思いつきで造った魔法で乾かし、ココアを淹れたコップを渡す

因みに、この魔法の出力を上げたのを氷精に唱えると溶ける

アイスが食べたいなあ

彼女の寝支度が整ってから私の入浴時間

彼女とくらべてかなり早く上がる

まあ、女にはいろいろあるから深くは追求しない

先に寝室に居る彼女に寝る前の挨拶をしてベットに入る

彼女から香る甘い匂いが部屋全体に広がり気が高まる

意味も無く無駄な事考える

明日も願わくば良い一日になるようにと

居もしない神に願おう

正確にはここにだがね

その無駄な考えを払拭し気怠い微^ま睡^いみに身体を委ねて闇に墜ちてく

おやすみ

美鈴

閑話・ある得るかもしれない一日（後書き）

まさかの中国でした。

こんな駄文ですが、観てくださる皆様に感謝いたします。
作者は巨乳もぺったんこも好きです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6151z/>

とある館の執事長

2012年1月14日01時01分発行